



保育随想

第7号
令和8年1月30日
庄和すずらん幼稚園
園長 戸田 千里

★ 「三つの容」

暦の上では「大寒」を終え、来る二月の「節分」を経て「立春」を迎えるとしています。とはいっても、まだまだ冬将軍が勢力を保っている日々ですが、菜の花や梅の便りを見聞きすることで、春がちょっとずつ近づいていることに嬉しさを感じるこの頃です。

幼稚園では今、全学年を通じて「郵便屋さんごっこ」が盛んです。実際のサイズの二回りほど大きくしたはがきを各クラスに用意して、子ども達は手紙を送りたいお友達や先生にお手紙を書き、学年ごとの郵便ポストに投函します。各クラスの郵便屋さんがクラスごとに設置された郵便受けに配達！文字が書けることを目的とした活動ではなく、文字に【興味】を持つことが主なねらいです。職員室にも郵便受けが用意されています。嬉しいことに私のところにもお手紙が届きます。毎年必ず“あるある”なのですが、私を「とら先生」だと思っている子どもからのお手紙は当然宛名が「とら先生へ」となっています。微笑ましくて、いつもくすっと笑ってしまいます。

現在大学二年生になっている卒園生が年長組の時、文字が読めるようになったからなのでしょうか。私の履いている上履きに「とだ」と書いてあるのを見て、大発見かのように「え？？とら先生って、とだって名前だったの？」と言われた面白エピソードがあります。子ども達が（あるいは大人も）何かちょっとしたミスや言い間違いがあった場合、すぐに訂正するのは簡単なことです。でも、その事よりもその子の伝えたいことを聞き入れることの方が大事だと思うのです。まずは、受け入れ【受容】です。そして、それを許す・認める・共有する【許容】。最後まで見届け、包み込む【包容】という三つの容を心掛けたいものだと、自分を戒めています。そんな風に思っていた矢先、通勤の車の中で聴いていたラジオ番組のコーナーで、ドキッとするコメント（言葉）がありました。「人には、まちがえる権利がある」と。失言やミスがあるとすぐに糾弾されてしまう世の中、チャットAIなどですぐに正解が見つけられる世の中に対する啓発みたいな言葉なのかもしれません、もっと柔らかい見方をすれば、子ども達は間違いの中から正解を見つけていくものだとして、受け取れました。間違えても、発達過程の中で自分で間違いを訂正できて、その後の生活に活かされるという繰り返しなのだと思います。

大人だって間違えますよね。それを受け入れてもらい、許してもらい、大丈夫だって包み込んでもらえたなら、自分を嫌いにならずにすみますね。お互い様ですもの。

先に記した大学二年生の卒園生と「よかったです！気づいてくれたんだ！」という会話を経て、笑い合い、彼はその後「とだ先生」と呼んでくれるようになりました。めでたしめでたしです。